

特集

沖縄におけるインバウンドの 農林水産物・食品の消費 及び農泊の実態調査

～平成28年度沖縄振興推進調査費～

目的・概要・狙い

クルーズ船利用者及び農産物直売所などに来訪するインバウンド（訪日外国人旅行者）を対象に、農林水産物・食品の消費実態や関心についてアンケート及びヒアリングを実施することにより、今後の沖縄におけるインバウンド向けの農林水産物・食品の消費拡大や輸出促進の可能性について、また、農泊の受入農家などを対象に、インバウンドの受入れについてのアンケートを実施し、農泊に対するニーズについて調査を実施しました。

今回の調査項目及び調査概要は以下となり、詳細なアンケート結果・分析については、後日、公表いたします。

調査項目と調査概要

●農林水産物・食品の消費実態調査

クルーズ船を利用したインバウンド



実施期間	平成28年12月6日～平成29年1月31日
調査地	那覇港クルーズターミナル、ツアーバス車内
調査方法	面接聞き取り調査、配布による自記入式調査
回収数	767（面接聞き取り回答数：246、ツアーバス回答数：521）

農林水産物直売所等に立ち寄ったインバウンド



実施期間	平成28年12月9日～平成29年2月2日
調査地	道の駅許田、古宇利島ふれあい広場、第一牧志公設市場など
調査方法	面接聞き取り調査
回収数	550

アンケートの内容

商品の情報の入手先、購入場所、購入理由、購入しなかった理由、不便だったこと
 外食した品目の情報の入手先、場所、選択理由、満足度、外食の際に重視すること
 グリーン・ツーリズムなどの農山漁村体験の意向 など

●農泊の実態調査

インバウンドを含めた農泊の受入れをしている農家など



実施期間	平成29年1月25日～平成29年2月24日
調査地	名護市、大宜味村、東村、今帰仁村、伊江村、読谷村、糸満市
調査方法	郵送調査
回収数	127

アンケートの内容

提供している農山漁村体験、料理及び人気のある体験プログラム
今後、インバウンドを迎えたいと考える同業者に対してのアドバイス
インバウンドを受け入れるに当たり困っていること など

●調査結果の概要

今回の調査によると、インバウンドはSNSなどの情報よりも、実際に沖縄の農林水産物・食品を店頭で見たり、飲食することにより得られた自らの実体験による情報を優先する傾向があります。

また、インバウンドの約6割の方がグリーン・ツーリズムなどの農山漁村体験を伴う滞在(農泊)について関心を有しているなどの情報が得られました。詳細なアンケート結果・分析については、後日、公表する予定です。今後、本調査結果を踏まえ、沖縄における農泊を一層推進することとしています。

参考

農泊の推進について

沖縄総合事務局では、滞在型農山漁村の確立・形成を図るため、沖縄ならではの伝統的な生活体験と農山漁村地域の人々との交流を楽しむ「農泊」を推進しています。

農泊の内容については、具体的には以下となります。

農泊とは **目的》何を目指すのか!?**

農泊とは、農山漁村において日本ならではの伝統的な生活体験と農村地域の人々との交流を楽しむ滞在(農山漁村滞在型旅行)です。

農家民宿だけではなく、古民家を活用した宿泊施設など、旅行者のニーズにあった多様な宿泊手段により農山漁村に滞在し魅力を味わってもらうことを目指しています。

- ☐ 農山漁村の所得向上を実現する上での重要な柱として農泊を位置づけ、インバウンドを含む観光客を農山漁村にも呼び込み、活性化を図ることが重要
- ☐ 地域一丸となって、農山漁村滞在型旅行をビジネスとして実施できる体制を整備
- ☐ 地域の合意形成が図られている ☐ 法人格、専属職員を有する組織が存在している
- ☐ 農山漁村地域の魅力向上・マーケティングの取組

ポイント》どう変わる(変える)のか!?

従来は

今後は

地域の目標	「生きがいづくり」に重点	☐ 持続可能な産業へ
資金	公費依存	☐ 自立的な運営
体制	任意協議会(責任が不明確)	☐ 法人格を持った推進組織(責任の明瞭化)
受入組織機能	農家への宿泊の斡旋が中心	☐ マーケティングに基づく多様なプログラム開発・販売・プロモーション・営業活動

観光客を農山漁村地域に呼び込み所得を増大!!

目指すべき農泊地域



※なお、沖縄では2020年までに10地域の創出を目指しています。